



■ 躯体管理課が設立された理由とその未来

建築工務部 躯体管理課
課長 恩田 智晃（勤続20年）千葉工業大学 卒

2023年に新設された「躯体管理課」は、設立から3年目を迎え、いよいよ本格的な進化への節目を迎えています。当社建築部門はこれまで、とび・コンクリート・重機土工といった専門工事を中心に事業を展開してきました。しかし今、建設業界は人手不足や技能者減少、そして発注者ニーズの高度化という大きな転換期にあります。従来の枠組みのままでは、事業の持続と成長を実現することはできません。現場数が減少し、一人ひとりの生産性向上が急務となる中、当社は“変わる覚悟”をもって、型枠・鉄筋を含む躯体工事を一括して管理・施工できる体制づくりに挑戦しています。現在は、その未来の基盤を固める重要な段階にあります。

第一に、現場全体を統括しプロジェクトの中核を担う「躯体管理者」の育成。

第二に、現場を支え、安定した品質と生産性を確保する支援・補完体制の構築。

第三に、実際の施工力を磨き上げる「躯体施工部隊」の育成。

これら三つのステップを確実に積み上げ、組織と業務全体の再構築を進めています。この仕組みが機能し、成果を生む段階へと成長したとき、当社は自社独自の「生産システム」を確立し、専門技術を最大限に活かした総合的な躯体建設を担う企業へと進化します。変革を恐れず、次の時代のスタンダードを自らつくり出す企業であり続けるため、これからも果敢に挑戦し続けます。



■ 躯体管理者の育成と業務支援

次世代を担う若手社員を対象に「躯体管理育成塾」を開講し、躯体工事の基礎知識から施工準備、管理、検査に至るまで体系的に学べる環境を整えています。講義資料はポータルサイト「施工フロー」に公開し、携帯端末からいつでも確認可能とすることで、実務に即した学びを支援しています。



躯体管理育成塾による管理者育成



「施工フロー」の現場活用



マネジメントサイトによる業務支援



また、躯体管理者と全体管理者の情報共有を深める「マネジメントサイト」も運用しています。進捗や課題を可視化し迅速な相談や報告を促すことで、リスクや期日管理を強化。業務支援の一環として、互いに支え合う関係を築き、現場と管理者をつなぐ仕組み創りを進めています。

■ 間(はざま)作業を埋める複合施工チームの構築を目指して

躯体工事では、工種の“間”に発生する作業への対応に苦慮し、元請職員が対応せざるを得ない場面も見受けられます。こうした課題に対し、当社では間(はざま)作業を含め一括施工できる「躯体施工部隊」の構築を進めています。主軸職種に加え、他工種にも対応可能な「単能複合工」を取り入れ、現場全体の対応力を高めています。さらに施工部隊をチーム化することで作業負荷を平準化し、新規入場者の出入りを抑えて災害リスクを低減。固定チームにより“自分の現場”という意識が芽生え、品質意識の向上にもつながります。もちろん、こうした体制は当社の直轄部隊だけでは限界があるため、協力会社とも連携しながら課題解決を図っていきます。



躯体施工部隊打合せ